

石巻赤十字病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせ致します。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用される事を希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。情報の利用停止を請求されたとしても治療に影響が出ることはありませんので安心してお申し出下さい。

2023年1月5日

①対象者	2020年4月1日から2025年3月31日までに本院に来院し光干渉断層撮影を用いて経皮的冠動脈形成術を受けた方		
②研究課題名	多枝病変合併虚血性心疾患における光干渉断層撮影(OCT)を用いた粥腫形態評価に関する多施設共同前後方視的登録観察研究		
③実施予定期間	倫理委員会承認後～2028年3月31日		
④実施機関	山形大学病院		
⑤研究代表者	氏名	渡辺 昌文	所属 第一内科
⑥使用する資料	検査データ、診療記録（虚血性心疾患の診断、虚血評価の有無、経皮的冠動脈形成術歴、冠動脈バイパス術歴、心筋梗塞既往、心不全既往、抗血小板薬内服と処方内容、抗凝固薬、症状、ショックの有無、補助循環の使用と内訳、糖尿病、高血圧、脂質異常症、喫煙歴、慢性閉塞性肺疾患、大動脈疾患、末梢動脈疾患、腎不全、透析の有無、造影剤量、透視時間）、光干渉断層撮影データ等		
⑦目的	<p>多枝病変合併虚血性心疾患の予後は悪いことが知られています。また、多枝病変を合併したとしても、虚血性心疾患の病態により予後が異なります。最近の研究により、光干渉断層撮影により同定された冠動脈の脆弱性粥腫が、将来の心筋梗塞や心臓死と関連する可能性が示唆されています。しかし、虚血性心疾患の病態と光干渉断層撮影により同定された脆弱性粥腫の関連については、検討が不十分です。特に本邦におけるデータはありません。そこで私たちは虚血性心疾患を患っている方の臨床背景、冠危険因子、虚血性心疾患の病態と経皮的冠動脈形成術中に得られた光干渉断層撮影のデータを分析することで、脆弱性粥腫の成因を検証します。</p> <p>この研究により、多枝病変において虚血性心疾患の病態と光干渉断層撮影による脆弱性粥腫の関連が明らかになれば、虚血性心疾患の治療戦略に役立つのではないかと考えています。</p>		
⑧方法	この研究では、虚血性心疾患を患っている方で光干渉断層撮影を用いた経皮的冠動脈形成術を受けた方 200 名を対象に、治療した当時の臨床情報を用いて、解析を実施します。		
⑨倫理審査	石巻赤十字病院倫理委員会	審査承認	2023年1月5日

様式 5

石巻赤十字病院倫理委員会 承認番号：22-17

⑩公表	本件研究の結果は、学会誌への投稿及び学会での発表などにより公表することを予定しております。			
⑪プライバシー	収集した情報を取り扱う際、個人が特定できないように無関係な番号（コード）を付与します（仮名化）。番号と患者さんを紐づける対応表は病院内で厳重に管理し、外部に知られることはないように致します。			
⑫知的財産権	研究者に帰属します。			
⑬利益相反	開示すべき企業はありません。			
⑭問い合わせ	担当者	石巻赤十字病院 循環器内科 山中 多聞	住所 電話	石巻市蛇田字西道下 71 番地 0225-21-7220（代表）
	*お問い合わせ対応期間：2023年1月～2028年3月			

本研究のノウハウやアイデアに関する情報については公開できませんのでご了承下さい。